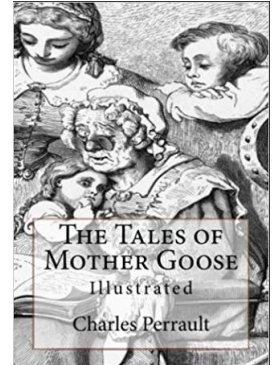


プロセス安全の経験談

2019年1月

物語には脳に刺激を与え、心に訴える力があると考えられ、何世紀にも渡り経験の伝承に用いられてきた。世界中の子供たちは、マザーグース、グリム童話、イソップ寓話などのおとぎ話を聞いて育っている。子供たちはこれらの話を忘れることなく、そこから生涯を通していろいろな知恵を学んでいる。

プロセス安全の先駆者であるTrevor Kletz (1922–2013) はプロセス安全に係る経験談の重要性を色々書き残している。物語は人の記憶に残るもので、プロセス危険性の講義やその他のトレーニング用教材よりもずっと頼りになる。幸いにもプロセス産業は重大事故の頻度を減らす面で大きな進歩を遂げてきた。

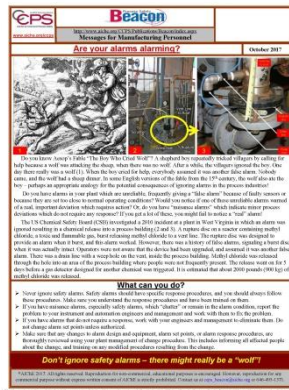


THE TALES OF MOTHER GOOSE
Illustrated
Charles Perrault

これまで、プロセス設備で働く人たちは、プロセスが適切に制御されない



イソップ寓話の「カラスと水差し」は創造力の大切さを教えてくれる。



2017年10月のBeaconは、イソップ寓話の「羊飼いと狼」に基づいている。

何が起こるかを経験から知っていて、プロセスの危険性に対する適切な認識力を身に付けてきた。一方、経験がない場合は、我々は日々の仕事の安全をトレーニング、訓練、手順書などに委ねている。「何をすべきか」と「何故、そうするのか」がしっかりと関連付けられていないと独りよがりになりがちである。起こる筈のない事故を防ぐために、これらのプロセス安全管理の手順に全て従わなければならないのは何故だろうか。我々が必要な手順に従っているおかげで事故が頻繁には起こらないで済んでいることを忘れていて。手順は厳格に守られていないと無意味になる。勝手な考えや手順を守らないことは将来の事故に繋がる第一歩となる。

あなたにできること

- プロセス産業での経験が長い場合は、直接経験した事故や前任者から聞いた事故の経緯を覚えている。これらの話を経験の浅い同僚たちに語る。過去に起きたことは、今ここでも起こり得ることだ、と知らせること。
- プロセス産業での経験が浅い場合は、ベテランの同僚にプロセス安全事故にまつわる経験談をして貰えるように頼むこと。
- 事故の経験を忘れないためには、経験者の異動や退職で失われる前に経験談を書き留めたり、その他の方法で記録したりすることを上司に提案すること。
- 業界を問わずに事故に関する記事を探し、自分の仕事に関連して何か学べることがないかを見出すこと。多くのBeaconは、一見自分の業界とは無関係な事故がいかにか重要な教訓を提供しているかの例となっている。例えば旅客船の火災（2016年9月号、変更管理）、飛行機のエンジン故障（2018年10月号、機械的健全性と危険なエネルギー）、アトランタ空港の火災（2018年12月号、緊急対応と共通原因故障）などがある。

“忘れてしまっても物語から思い出せるものだ”

- Doctor Who, Series 9, Episode 12